

第3回大野市通学区域審議会  
会議録

日 時：令和5年9月19日（火）午後7時～午後8時32分

場 所：大会議室

## 【開会】

事務局：ただいまから、「第3回大野市通学区域審議会」を開会する。

## 【教育理念の唱和】

——<大野市教育理念の唱和>——

## 【会長挨拶】

会長：本日は、これまでの第1回、第2回の審議を踏まえて作成した答申案について、再度様々な角度からご意見をいただき、皆様の了承をもって答申案を決定したいので、どうかよろしく願います。

## 【会議録署名人】

会長：本日の会議録署名人は、高田委員、松田委員に願います。

## 【議事】

会長：1 「有終西小学校を卒業する児童が進学する中学校の通学区域の考え方とその具体的な方策について（答申案）」について、事務局の説明をお願いします。  
——<事務局説明>——

会長：ご意見、ご質問等があれば願います。

委員：当該家庭への配慮として「一定期間」というのは、どれぐらいの期間を想定しているか。

事務局：きょうだいが出るときの学校に分かれてしまう状態が解消されるまでと考えている。明確に何年という数字はないが、きょうだいが出ればなれになることは避けたいので、それが解消されるまでと考える。

委員：もし仮に、きょうだいが3人4人いた場合、希望すればきょうだいの一番下の子がずっと陽明中学校に行くことが可能ということか。

事務局：理屈としてはそのようなことになる。事務局で、小学校1年生から6年生まで在籍している児童を調べたところ、今の3年生以下になると、その時に上の子が陽明中学校に在籍している家庭はない。

会長：前回の委員会の最後の部分で、細かいことについては答申案には載せない方がいいという意見があったが、やはり付帯事項を付けるということの説明を願いたい。

事務局：確かに細かい付帯事項を付けないというご意見があったが、ただ、きょうだいに分かれる場合どうなるのかという意見もあった。きょうだいについて一切触れずに、全員が開成中学校に進学するのが望ましいというだけの答申案では、今後、例えば有終西小学校に説明に行った時に、文字になっていない約束を口頭でするという可能性もある。それより、特にきょうだいについては十分配慮するというをはっきりしておいた方が、より安心感があるのではないかという判断をした。

会長：付帯事項（２）の通学距離に関しても、同じようなことか。

事務局：その通りである。

委員：細かい文面のことでお願いしたい。本文１ページ１行目「現在、・・・現状がある。」の箇所では同じことを２回言っているので、どちらかで良いと思う。全体的に有終西小学校を持ち上げるようなニュアンスを受けるので、もう少し簡素化できたらという部分が何箇所か見受けられた。それと、「２ 答申にあたって」の７行目「その意味で」というところを「それらを踏まえた上で」という表現に変えたほうが分かりやすい。８行目「審議することを通して」は「審議することは」でいいと思う。１０行目「認識しているところである」は「認識させるものであった」が良い。細かいところで、文面が少し丁寧すぎるという感じを受けた。

委員：２行目「現状がある」は「現状にある」が良い。

委員：２行目は「進学する現状がある」より「進学している」が良い。

７行目「これを受けて、教育委員会が」は「教育委員会では」が良い。３行目「有終西小学校PTAによって」は「PTAが」、「アンケート調査が行われた」は「アンケート調査を行った」とか。「そのアンケート結果を・・・」の行は、「そのアンケート結果を全会員１１６世帯中１１０世帯が教育委員会に届けることに賛成したため」という流れの方が良い感じがする。

会長：今ご指摘いただいたそのままではなくても良いが、分かりやすく概ねその方向で直していただけたらと思う。

委員：付帯事項（２）は、どのような場合を想定しているのか。例えば、有終西小学校区が一番遠いところで約２kmなので、陽明中学校なら１kmで行けるのに開成中学校へは２kmになるという場合なのか。

事務局：事務局で直線距離を測ってみたところ、八間通りがちょうど開成中学校と陽明中学校の中間地点になるので、八間通りより陽明中学校に近いところの家庭においては、通学距離は遠くなる。通学距離が遠くなることで、個別に相談があった場合、十分相談にのって、距離のことや自転車通学で利便が図られるように検討するという意味合いで書いている。この点については今おっしゃられたように、一番遠いところで２kmなので、本日、この箇所の扱いについては審議いただければ結構だと考えている。

委員：例えば、身体的に通学距離が増えることによって負担が増えるケースなどは考えるが、通常の中学生に2 kmは遠いかというと、私は決して負担ではないと思う。この「通学距離が遠くなる」という言葉が入っていると、保護者にとっては、陽明中学校なら500 mでいいのに開成中学校だと2 kmになって遠くなるから嫌だと言う人もいるかもしれない。基準があいまいになるような気がする。

委員：付帯事項（3）の個別事案というのはどんなことが想定されるのか。

事務局：今言われたような、例えば身体的な都合もあって1 kmが2 kmになっても遠いというようなケースなども（3）に当てはまるのではないかと思う。それから、「就学学校指定変更に関する要綱」の中にある「教育上の配慮が必要な場合」のケースなどがそれに当たる。これは個別に相談をお聞きし、判断をするということになる。

委員：通学距離のことはいらないかもしれない。今は有終西小学校のことだが、この文言を入れておくと乾側地区の子たちにも関わってきて、距離が近いのなら開成中学校に行かせて欲しいという話も出てくるかもしれない。

会長：付帯事項（2）は、（3）の中に含まれると思う。

委員：付帯事項（2）はなくても良いと思う。

委員：私も付帯事項（2）は削れば良いと思う。

会長：それと、資料1「第2回審議会での主な意見」の一番最初にも書いてあるように、自転車通学の距離の話があったが、両中学校の自転車通学の距離が少し違うので、可能であれば、両中学校で自転車通学の距離の考え方も揃えた方がいいかと思う。

委員：開成中学校は、生徒数が減ってきたので自転車小屋に余裕が出てきて1.5 kmになったが、最初は2 kmぐらいだったと思う。

委員：自転車小屋の数に応じている。全体の生徒数から自転車小屋の数を計算して決めているのがこれまでの経緯である。

会長：付帯事項（2）はとるという方向で良いか。

委員：それで良い。

会長：ぜひその他にも全員から率直な意見を聞かせていただきたい。

委員：こういう大事な会議に出させていただいて、いろんな考えを聞かせてもらって勉強になったし、答申案を読んで義務教育9年間の連続性を確保することが重要という言葉が私にもよく理解できたので、上手に書いていただいていると思う。すごく良い方向へ進むのではないかと思うが、今から十分な時間をかけて説明をしていく必要があると思う。私の子どもは中学生で、以前は有終西小学校に通っていたが、中学生の中でも、有終西小学校から入学してくる予定だった子が来なくなったことを残念だと言っている子もいる。当事者だけではなく大野市全体としてこういうことを把握して、今このような方法で子どもた

ちの教育を大事にしていくということを伝えられればと思う。

委員：この審議会で答申を決めて、教育委員会としてどのように扱うか、これから先のことを考えて結論を出すことになる。審議会のメンバーはどちらかというところと賛成の地域に住んでいたということもあるかもしれないが、これから地域への説明や皆様の意見を聞くことも大事なことではあるが、意見をしっかり伝えていくということも大事だと思う。

委員：私の家は六間通りに面しているのですが、中学生になる時に友だちと離ればなれになった経験がある。なぜここで分かれるのかと思っていたので、これから住民の方に説明される時は丁寧に説明していただきたい。いろんな立場の人が集まって話し合うことで、いろんな意見が出てスピーディに物事が決まってくることがすばらしいと思った。

委員：私は元々県外の人間で転校生だった。ただ最初1ヶ月ぐらいですぐに学校や友だちにはなじむ。付帯事項についてはいつまでという期間は決めておいた方が良く思う。丁寧に対応すればいいのだが、「現に」中学生という表現があるので、個別に対応することもできるのなら、委員が言われたように来年度の小学校1年生ぐらいとか、終了の期日を決めておいた方が良く思う。

会長：一定期間というところについて言っているのか。

委員：児童の人数を検証いただいて、きょうだいのいる対象者がそれほど多くないということなら、令和6年4月時点の小学校1年生で最後ぐらいにしてしまえば良いと思う。調査しているデータの資料を付けて、決めてしまえば良いのではないかと。

会長：確認だが、事務局ではそういう実態をつかんでいて、何年後にはもう終了するという目処はたっているのか。

事務局：今の有終西小学校に通っている児童のうち、6年生には陽明中学校にきょうだいがいる児童が数名いて、5年生にもいる。それに関連して、4年生と6年生のきょうだいにも同じように、入学時に陽明中学校にきょうだいがいる児童がいる。ただ3年生になると、その対象の子はいなくなるというのが、今現在の住所を元にして調べた結果ではあるが、今のご意見を踏まえるのであれば、再度きちんと調べることは可能だと思う。

委員：きょうだいがいるから陽明中学校に行く子もいれば、きょうだいと離れても友だちがいるから開成中学校に行く子もいるだろう。基本的には全員開成中学校でも良いと思っているが、ただ少し含みを持たせないで、やはりアンケートを読ませていただいても100%賛成ではないから、その辺りは少し柔軟性を持たせないで反発もあるだろうし、それほど厳しくしなくても良いと思う。

委員：審議会の答申としては一定期間の期限まで決めなくても良いのでは。一定期間の配慮が必要であるという文言は答申の前段に含まれているので、答申は、むしろ少し含みを持たせておいて良いと思う。

会長：確かに「一定期間」というのは「2 答申にあたって」に書かれているわけで、「3 答申」そのものに書かれているわけではない。ここはむしろ含みを持たせておいても良いのでは。

委員：先ほどこの審議会が当初から賛成という雰囲気だったと言われていたが、私自身も最初から賛成という意思表示はさせていただいた。ただ私は、根本にあるのは有終西小学校からそういう意見が上がったということ尊重すべきということで、賛成したいと思った。このPTAの意見を尊重するという意味合いで、私は賛成ということ改めて申し上げたい。

委員：私も審議会に呼ばれた時、やはり有終西小学校PTAがアンケートを出してきたことに一番重きを置くことと、子どもたちを一番の優先順位として考えた。友だちと離れたくないという意見もあったし、中学校が統合して二つになるので平等の教育をして欲しいということ優先的に考えた。自分の経験を振り返ると、34年前に六間通りで中学校が分かれた。私の100m前の家の友人が陽明中学校に行ってしまう、私は開成中学校だった。ただ、小学校の時の友だちは社会人になってからあまりつき合いがない。中学校や高校時代の友だちとは付き合いが今もある。小学校から全員が同じ中学校に入れた方が子どもにとってはいいのではと自分の体験から思った。陽明中学校の人数と開成中学校の人数がしばらくはある程度均等になる。その後は、正直なところまた考えないといけないことが出てくる。例えば去年の出生数が大野市で150人程度だった。陽明中学校と開成中学校を合わせても150人しかいなくなるという現状になってくる。その前に、中学校が二つある間に平等に教育できる環境を作らないといけない。

委員：一番大事なことは、子どもたちが健康で元気よく勉強できる環境づくりをして欲しいということ。

会長：私も最後に一言だけ話させていただきたい。この「2 答申にあたって」という部分は私が書かせていただいた。求められていることが幾つもある中で、開かれた学校づくりというのがある。開かれた学校というのは、PTAや地域の方が積極的に学校教育に携わっていくことだと思う。そういう意味で有終西小学校PTAがアンケートをとられ、教育委員会に出されたということは意味があったし、それをきちんと教育委員会が受け止めてこういう場を設けて議論したということで、開かれた学校づくりを市教委もされているということ認識した。それともう一つは、生徒が主体の学校づくりといわれている。このことに関して6月ぐらいに教育新聞で中央教育審議会の荒瀬会長が、法隆寺の棟梁の西岡さんの言葉を受けて、西岡さんは「木のことは木に聞け」と言われたらしいが、それを受けて、「子どものことは子どもに聞け」という話をされた。学校づくりで子どもたちの意見もこれまで以上にしっかり受け止めて、教育に反映していくことが大事だ。また一方で、必ずしもアンケートの結果が10対

0で賛成ではなく、どちらの中学校の教育も素晴らしいから現状のままでいいという意見もあった。そういうことを考えると、これも評論家の中西慶一郎さんが言っていたことだが、民主主義というのは少数派の考えをどれだけしっかり受けとめるかということ、その上で物事をどのように決めていくかによって一番意識を変えていくという話をされている。そう考えると、この後、答申をさせていただいた教育委員会の方を中心に、とにかく学校や地域へ丁寧に説明いただいて、十分納得してもらいたい。特に中学校の子どもたちが関心があって、残念がっている子がいるという話もあったし、逆に喜んでいる子もいると思うので、子どもたちを含めて丁寧に説明をいただき、納得されない方については丁寧に対応していただきたいと思う。それがやはり今回の答申をしっかりした形にしていく大事な要素になっていく。この審議会委員の皆様には様々な意見を出していただき、ご審議いただいて、本当に感謝申し上げます。このような形で答申をまとめていきたい。

では、審議については以上とする。

2「その他」として委員から何かあるか。

委員：全くこういうことに無理解だったが区長会に入ってこの審議会に参加させていただき、意見を聞かせていただいて参考になった。この文科省の資料が平成21年ということは、15年ほど前にこういうことが望ましいという話が出ていたということ。絶対ということではなかったと思うが、この時点から話としては出ていた。だから、今回は有終西小学校PTAから話が出てきたから、今こういう協議になっているが、今までアクションを起こしてこなかったことは少し疑問に思う。今は中学校の再編だが、次は小学校の再編を迎えている。私がお願いしたいのは、たまたま今回は有終西小学校だけだが、当然有終東小学校のことを考える必要もあると思う。今回の答申で、有終西小学校に対してはこういうことが望ましいという意見を出している一方で、今後、有終東小学校はそのままということにはならない。当然、有終東小学校の問題がこれから浮上してくると思う。教育委員会としては、意見が出てくるのを待っているだけではなくて、教育委員会の方から、小学校中学校9年間を通して教育するのが望ましいということを押し出して、議論をしていくべきではないか。有終西小学校の例を見て、有終東小学校のPTAからもしかすると来年あたり、こういう意見が上がってくるかもしれない。ただ、待っているのではなく、やはり教育委員会の方から、再編の一つの機会だと思って教育行政や大野市全体を考えていく必要があると思うのでお願いしたい。

委員：有終西小学校から陽明中学校に行くはずだった生徒が、資料によると50名程度開成中学校に来ることになるようだ。地図を見ると、ほぼ全員が自転車通学になると思われる。これから説明に回る時も、自転車通学ができると説明することになると思う。現在改修中の開成中学校の自転車小屋のキャパシティ

が、現在の開成中学校の生徒と上庄中学校の一部の生徒が自転車通学になるという見通しの元でつくっている。改修担当の方で、これだけの人数が増えても大丈夫かどうか検討していただきたい。

事務局：現在、中学校の改修を行っているが、自転車小屋についてしっかりと調整していきたい。

委員：開成中学校の自転車通学は今1.5kmだが、2kmにしたら現在の有終西小学校の児童はほとんど徒歩通学になるのではないか。

委員：数字的には良いが、今、自転車通学の許可を出している生徒たちに、来年になると徒歩通学になるということはすごく言いづらい。徐々には延ばして行けると思うがすぐには難しい。

委員：現在いる生徒は難しいが、新たに入ってくる生徒には対応できるのではないか。開成中学校まで行くのに三番通りなどの市街地を通るので、安全面からなるべく自転車通学は避けた方がいいような気がする。当然冬場は、自転車通学ではないのだから、冬に歩けるのなら夏も歩けるだろうと思う。

委員：だいたい2km歩くと30分ぐらいかかる。

委員：今まで自転車通学になっている子のすぐ近くの家の子に、徒歩通学になるというのも言いづらいと思う。

委員：有終西小学校の子は、自転車通学対象を2kmにすればほとんど徒歩通学になると思う。今現在、開成中学校の1.5kmというのは、小山地区から来ている子ではないのか。市街地は車の往来も激しいし、徒歩通学にしてはどうかと思う。

会長：校則についてはその学校で責任をもって決めていただくことになると思うが、今の意見も参考にしていきたい。事務局から何かあるか。

事務局：今後のスケジュールについて説明する。まず本日の意見を元に事務局と会長で修正を加えて最終答申とし、その答申を教育委員会にいただく。その後、早速、有終西小学校の保護者や地区の皆様の説明し、意見をいただいて、次の定例教育委員会で正式な方針を決定するという段取りで進めていきたいと考えている。10月は地域へ説明する期間というご理解をいただきたい。また、会長から教育委員会に答申をいただく期日については、今の段階では何日になるか断定はできないが、決まり次第、委員の方へ連絡させていただく。

会長：以上ですべての審議を終了する。

#### 【教育長挨拶】

教育長：慎重な審議をいただき、いろんな意見をいただき感謝申し上げます。そこで3点申し上げます。1点目は、教育委員会の方針として、慎重に丁寧に着実にということやってきた。私が5年前にこの職につかせていただいた第一声



がこれだった。慎重に丁寧にそして着実に、5年間一步一步前に進んでこられたと思っている。それと2点目が、見える化である。どのような議論がされているのか、すべて100%公開をして、報道などを通じて、市民の皆様がこんなふうに進められているのかと実感できるよう気にしてきた。そして3点目が、対話である。学校再編の計画をまとめる時には、市内70回、回らせていただいた。そこでいろんな意見をいただき、皆様にもいろいろ考えていただいた。今回も、有終西小学校の保護者に説明会として、いろんな意見や考えをお聞きしたいと思う。9月8日付で、全有終西小学校保護者の皆様に、今後、教育委員会で方針を決定する前に、答申についてご説明をさせていただくとアナウンスをした。会長から最終の答申をいただいたらすぐにいつ説明会を行うか決めたいと思う。10月の早々に開催したい。保護者の皆様にはまだ報道やホームページだけの情報しかないので、なるべく早くご説明したい。

最後に、これを機会に大野市の子育ての総合的な環境の整備をしていきたいということでやってきたので、先ほどの有終東小学校の件についても、議会でも話しているし、第1回目の審議会でも話させていただいている。有終西小学校だけでなく総合的に進めていく中で、責任をもって対応していきたい。そして、説明会でご意見を伺いながら、10月30日の定例教育委員会で方針を決定していきたいと思う。長らくお世話になり感謝申し上げます。引き続き、丁寧に対応して参りたい。

#### 【閉会】

副会長：暑い中お疲れの中、3回にわたり子どもたちのために本当に一生懸命討論していただき、感謝申し上げます。子どもたちや地域の方、PTAの方々にもなるべく早く知らせていただきたい。子どもたちがますます元気で明るく頑張れるように願っている。